

奈良の丘だより

横浜市立奈良の丘小学校

学校教育目標 11月号

笑顔いっぱい チャレンジいっぱい奈良の丘



- 自ら考え、進んで行動する子を育てます
- 互いに認め合い、高め合う子を育てます
- たくましく、共に生きる子を育てます

<http://www-local.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/naranooka/>

一人ひとりが輝いた運動会 ～「主体性が育つ」ということ～

校長 岩崎 健治

10月18日、秋空の下、本校の第20回運動会が開催されました。新型コロナウイルス感染症対策を講じた運動会ではありましたが、子どもたちは今まで取り組んできた力を存分に発揮していました。保護者の皆様におかれましては、子どもたちへの見守り、ご理解とご協力をたくさんいただきましたこと、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。運動会の様々な場面で、真剣に踊る姿、笑顔いっぱいに振る舞う様子、最後まであきらめないで全力で走る姿、素直で健気な子どもたちのよさを改めて実感しました。また、演技や競技に参加しない場面でも自分の仕事を主体的に取り組み、自分たちなりに工夫した活動を行っていました。

運動会の準備や練習は、夏休み明けから始まりました。運動会に向けて、各学年の演技や競技、練習の他にも、応援団、リレーチーム、運動会当日の係など、特別に作られたチームがそれぞれに動き出すのもこの時期です。はじめは、どれも教師の指導が活動を先導します。子どもに教えるべきことをしっかりと教え、活動の見通しをもつことができるようにするためです。そして同時に、子どもに任せたり考えさせたりすることも伝えておきます。運動会に向けた活動をとおして、子どもたちの創造性、主体性を伸ばしていきたいからです。期待していたように、運動会に向けた活動が進んでいくにつれて、活動の主体が子どもに移っていくようすが見られるようになりました。それは、子どもたちの運動会に向かう意欲、「自主活動」という形などで現れてきました。決められた練習時間だけではなく、空いている時間に声をかけ、自分たちで時間と場所を見つけて練習をしていました。学年演技やリレーでも、限られた時間の中、自主的に互いに教え合ったり、見合ったりする姿も見られるようになりました。学年演技の練習を何度も繰り返す姿もよく見られました。応援の方法も感染対策を意識しながら、自分たちでできる方法を考え、工夫して誰もが楽しめるようにと取り組んでいました。また、入退場門も新しいものを作り上げ、装飾しました。環境をよくするための清掃活動や除草活動を一生懸命にする姿も見られました。そこには、運動会を自分たちの手で創り上げようとする子どもたちの生き生きとした姿がありました。



明確な目標があること、やればできるという手ごたえを感じて自信をもつこと、まわりの人から励まされたり褒められたりすること、一緒にやる仲間がいること・・・子どもの主体性が育つ過程で共通していることは、このようなことではないかと思いました。

厳しい状況下の中、本校の教育活動や運動会の実施に際し、多くの皆様のご理解・ご協力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。